

## 5月連休の白馬岳登山（2008年5月4日～6日）

5月連休のKCの衣替え作業が終わっていないなか、優しい先輩諸兄に送り出して頂いて笹川、和田、青景の3名は柳又谷源流での山スキーを計画して梅池より白馬岳に向いました。しかし、三国境までスキーを担ぎ上げたにも拘らず、天候に恵まれず白馬岳を登頂して一気に梅池ヒュッテまで下山し、予定した山スキーは出来ませんでした。先輩諸兄に感謝しつつ、以下にその概要を報告いたします。

メンバー： L 和田穰二、SL 笹川雅史 記録 青景平昌

5月4日（快晴）

KC発（6:30）－梅池駐車場（7:00）－梅池ゴンドラリフト駅発（8:10）－ロープウェイ自然園着（8:45）  
－梅池自然園発（9:00）－天狗原（11:10）－乗鞍岳（13:10）－白馬大池（14:20）－船越の頭の斜面下部にて雪洞掘削（14:30－15:30）

どう言う訳か、この連休は連日好天に恵まれるものと信じきって計画したし、KCを出発するときもそれを疑わなかった。雪洞を使った快適な山スキーとなる筈であった。

梅池駐車場では、ゴンドラリフトの始発を待つ車が多く駐車し、車中泊の連中がごそごそ出てきて出発準備を始めている所であった。始発便に合わせて待機してゴンドラリフトに乗り込むが、今年は残雪が少なく終点の標高1704mの梅の森グレンデでは地肌が出てリフトは動いていなかった。（写真1）

さらに梅池ロープウェイに乗り換えて梅池自然園駅に着いてやっと銀世界となった。駅の出口で自然保護のための立ち入り禁止区域のレクチャーを受けて、快晴無風の素晴らしい風景の中をいよいよ天狗原に向けてシール登高を開始した。

最初は、森林帯のトレースに沿ってゆくが、森林帯を抜けると、すでに腐った急な雪面を思い思いにジグザグに登っていった。（写真2、3）春の強い日差しの中を汗びっしょりである。乗鞍岳の斜面には、すでに多くのボーダーやスキーヤーが蟻のように連なって登っている。（写真4）ヘリスキーや前泊の人たちなのであろう。

乗鞍岳の最後の登りまでスキーにこだわって登ったが、後半は雪が腐ってシールが効かなくなっていた。乗鞍岳の頂上から白馬大池に向けてはスキーで滑れるものと期待したが、残念ながらその斜面には滑れる



写真1 ゴンドラリフトより八方尾根方面を望む



写真2 天狗原へのシール登高

雪はなく折り重なる岩がむき出しになっていた。(写真5) 登りにスキーを履き、下りにはスキーを担ぐことになった。しかし、白馬大池から船越の頭の斜面には雪がしっかり残っており、白馬大池山荘はその屋根の一部を残して雪をかぶっており、雪洞はなんとか掘れそうなのでほっとする。(写真6)

雪洞は、船越の頭の斜面下のトレースの脇に設営することにした。何しろ40年ぶりの作業である。5月の残雪は硬く、疲れた体にはキツイ作業であった。約1時間をかけて十分ではないが、やっと3人が隠れる大きさに掘れたところで完成とした。(写真7) しかし、夜中に寒さで震えている笹川さんの振動が伝わってきた。雪の壁に押し付けられて寝た人には、期待したほど快適ではなかったようだ。もう少し拡張が必要だった。



写真3 天狗原への登り



写真4 乗鞍岳の斜面  
(蟻のようなスキーヤーの群れ)



写真5 乗鞍岳の頂上 戸隠と妙高を望む



写真6 乗鞍岳から船越の頭の斜面  
(右手に白馬大池)



写真7 40年ぶりの雪洞設営

5月5日（曇りのち雨）

雪洞出発(5:20)－小蓮華岳(7:50)－三国境(9:10)－白馬頂上(10:50～11:15)－三国境(11:50～12:00)－小蓮華(13:30)－白馬大池雪洞撤去(15:30～16:30)－乗鞍岳(17:30)－梅池ヒュッテ(18:30)

歳をとると朝が早くなるというが、そればかりではなく、寒さに我慢できなくて3時には起きてしまった。天候は曇りで下り坂のようだ。また稜線の雪が思いのほか少なそうなので、長池付近での雪洞設営はやめて、今夜もこの雪洞を使用することに計画を変更する。しかし、長池付近でのスキー滑走を期待して、スキー道具だけは担ぎ上げることにする。

スタートの船越の頭の斜面は傾斜がきついのでつぼ足で登らざるを得ないが、稜線ではシール登高できるものと思っていた。しかし結果的には残念ながらスキーをつけて登れる稜線はなかった。山スキー用の靴とはいえ、雪のない稜線の砂利道を歩くには相当難儀した。天候悪化を知っているのか、白馬岳から下山を急ぐ人は多かったが、逆に入山する人は我々以外には途中で会った単独のテレマーカートの二人であった。



写真8 小蓮華岳の登り

このルートから見える鉢ヶ岳、雪倉岳、朝日岳の稜線は、現役時代に馴染んだところであるので、懐かしさはあるが、40年振りの新鮮な景色であった。

三国境まで来たところで雨が落ち始めた。ここから長池まで降りてスキーをする予定であったが、ガスと雨で諦めざるを得なかった。白馬岳の頂上だけは踏みたいとの思いから、スキーをデポして頂上に向う。誰もいない頂上はガスで何も見えなかった。

ここで会った神戸のテレマーカートの二人は、猿倉から小蓮華尾根を登り白馬岳経由で、そのまま大雪渓を降りるとのこと。山スキーの機動性を生かした山行だ。我々は、頂上からアイゼンを使用して三国境まで下った。本格的に降り始めた雨のなか、再びスキーを担いでの下山となった。

雪洞までの最後の斜面である船越の頭に着いて初めてやっとスキーで滑れることが出来た。雪洞までのあつと言う間のスキーではあったが、その機動性の恩恵にあずかることが出来た。雨はますます激しく降り始め

てきたので、雪洞を撤収し梅池ヒュッテに退避することにした。再びスキーを担いで、雨とガスで薄暗くなったなかを和田さんのGPSを頼りに乗鞍岳を経由して滑降斜面の上部に辿り着いた。昨日はあんなにたくさん居たスキーヤーは誰も居なかった。山スキー初心者には雨のなか乗鞍岳の斜面を15kgの荷を担いで上手く滑れるのか心配の種であったが、火事場の馬鹿力で梅池ヒュッテまで一気に滑降することが出来た。夕暮れ迫るなかずぶ濡れ状態で飛び込んだヒュッテにお世話になることになった。素泊まりで6000円であった。



写真9 小蓮華岳より白馬岳を望む



写真10 三国境への登り



写真11 白馬岳頂上にて



写真12 左の谷が柳又谷、中央の雪原が長池、  
その後に鉢ヶ岳

5月6日（快晴）

梅池ヒュッテ(7:40)ーゴンドラ駅(8:10)ー梅池駐車場(8:40~9:10)ーKC着(9:40)ーKC発(10:30)ー帰京  
夜半に寒冷前線が通過し、皮肉にも快晴の朝を迎えた。バリバリに凍った雪道をゴンドラリフト駅までスキーで降り帰途に着いた。今回の成果は、スキー靴で白馬岳の頂上に立ったこと、スキーを三国境まで担ぎ上げたことと評価したい。

以上